



2025

関係人口
と協働する
【産業振興】

地域資源利活用プロジェクト 竹と暮らしの Re: デザイン (房州うちわ伝統的工芸品産業・南房総学等への技術的支援)

実施者

- ＜実施者＞ 産学協働地域活力創造事業 地域コーディネーター青木 秀幸（千葉工業大学非常勤講師，合同会社いいもんだ）南房総学サポート）千葉工業大学 社会システム学部プロジェクトマネジメント学科 加藤研究室（教員、学生4名）教員、学生4名）
- ＜協働パートナー＞ 【行政】南房総市 市民生活部 市民課 市民協働G/商工観光部 商工課，観光プロモーション課/教育委員会 子ども教育課/総務部 企画財政課
- 【学校】南房総中学校3年生72人，嶺南中学校2年生63人
- 【企業等】房州うちわ振興協議会，みねおかいきいき館，南房総市観光協会ほか
- 【市民団体等】千倉地域づくり協議会きずな，高家学ぼう会

1. 背景・目的

世界で保護・保全すべき地域「生物多様性ホットスポット」（世界36カ所）の一つに指定されている日本。その重要なポイントの一つが里山である。今南房総市内の里山は、放置された竹が引き起こす“竹害”や目下120年に1度と言われている淡竹の一斉枯死の周期を迎えて危機に瀕している。千葉県で随一の竹林面積を有する南房総市において竹害による災害から人々の暮らしを守り、美しい里山景観や房総産女竹をつかった房州うちわ伝統産業を次世代に受け継ぐためには「竹林の適正管理」と「間伐した竹の利活用促進」が必要不可欠である。そこで2020年度からスタートした本プロジェクト（以下PJと略す）では本年度、次の2点に取り組んだ。

- ①昨年度から引き続き房州うちわの原料調達問題に鑑み、伝統的工芸品産業の継承の視点から原料となる女竹の効率的採集にむけた竹林の適正管理手法を開発する
- ②地元市民団体主導型の事業の継続と新事業展開に対して、技術的な支援を行いつつ新たに学校教育に絡めた利活用へ取り組むそして最終的にはこれまで支援してきた各事業が、市民団体等による事業運営が自走できるよう持続可能なくみづくりを目指す。

2. 活動内容

(1) 房州地方の女竹林に関する竹林整備手法の開発

～房州うちわ伝統的産業の継承の視点から～ ※図1～2

本PJでは、昨年度より房州うちわの効率的な原料採取にむけた房州産女竹に関する竹林管理の要点を解明するため、かつての産地だった地区内に2箇所の実験林を設定し、1～5年以上の竹が生育している竹林内の新子（新しい女竹）の生態観察などを続けてきた。引き続き本年度は以下の内容に取り組んだ。

=活動詳細(2025) =

- ・実験林区画内における新子の食害防護用ネットの設置(獣害対策)
- ・実験林区画内における枯れた女竹の整備・除去
- ・実験林の生態観察 2年目(竹齢別，枝下高さ，太さ，節間，房州うちわ用竹材としての適正など)

(2) 間伐した竹材活用のための新事業展開・継続にむけた技術的支援

①災害復興から始まった「南房総竹あかり」イベントの運営管理の効率化支援【災害復興・観光振興面】 ※図3～6

今年で7年目を迎え、神社を訪れる観光客や周辺旅館，神社等関係者からも好評を博し，千倉の冬の風物詩としても定着しつつある南房総市竹あかり。本PJではこれまで運営団体の高齢化がすすむイベントの持続可能性を高めるべく，竹灯籠の設置における運営団体の「つくる負担」と「組み立てる負担」の半減を試みてきた。本年度は，2022年導入の「新固定システム」と2024年施行の「割れ防止用ステンレスバンド」について以下の検証を行った。

=検証(2025) =

- ・2024年度に割れ防止として試行したステンレスバンドの耐久性評価と課題整理(1年間使用，「つくる負担(耐久性)」軽減の検証)
 - ・2022年度開発の新固定システム型竹灯籠ユニット(2mの竹灯籠3本を簡単につなぎ地面に垂直に設置する筋交い接合)の機能性評価と課題整理(3年間使用，「組み立てる負担」軽減効果の検証)
- #### ②南房総中房総学「竹あかり大作戦」の学習支援【地元学教育面】
- 本PJでは2022年度から4年目に当たる本年度は「竹あかりづくり」のプログラムを，南房総中房総学の中で千倉地域づくり協議会高家学ぼう会とともに企画・運営した(12/9，千倉中，70名，2コマ90分，1～2個/人の作成，計150個程度のミニ竹灯籠の制作目標)。授業として定着してきた一方で，生徒の作品の設置や演出面で課題となったミニ竹灯籠の連結とLEDロープの設置問題をふまえ



1 実験林区画内における新子の食害防護用ネットの設置 2 実験林の女竹の生態観察 3 南房総竹あかりの設営の様子 4 「組み立てる」負担軽減を目的に考案された新固定システム 5. 破損箇所 6. 組立風景



域学協働の工夫！

- ★市民団体・事業主を主役とし自立と新事業展開を助ける大学関係人口による技術支援
- ★地域の“本当に困った”に対する課題認識と課題解決にむけたビジョンの共有
- ★協働事業における途中の成果検証と改善を挟んだ伴走型の事業支援

て、本年度は以下のような技術的な工夫を行った(図7～10)。

=本PJによる主な技術支援(2025) =

- ・安全管理，体験促進のために工大生4名等の参加【安全面】
 - ・絵柄を表現しやすく・神社の参道に設置しやすくするためにLEDを通す穴の位置や大きさを工夫【効率面&演出面】
- ### ③嶺南中房総学の学習支援【防災教育面】
- 本PJでは，10～11月にかけて，丸山の丸山地区にて防災技術研究会主催の嶺南中学校2年生60名を対象とした「防災」と「里山保全」をテーマとした実践講座のサポートを行った。

3. 成果と課題

(1) 地域貢献面

- ・房州うちわ伝統工芸品産業支援の1つとして取り組んできた原料となる女竹の効率的採取にむけた女竹林の適正管理と整備手法の研究開発では，2つの実験林の経年的な生態観察を通じて竹年齢の構成と新竹の出現との間に一定の傾向を確認するに至った。
- ・「南房総市竹あかり」の運営技術支援の中の市民団体による竹灯籠を「組み立てる負担」の半減の試みでは，2022年に開発された新固定システムの3年間にわたる使用検証の結果，竹と金物との接合部の耐久性と接合応力による竹の特殊な割れの問題，組

*表彰・マスコミ掲載など

・「闇夜を照らす竹あかり～中学生ら手作り～」毎日新聞，2025.12.23

み立て方法の浸透に課題が明らかになり新たな対策が求められた。

- ・また竹灯籠を「つくる負担」半減にむけた耐用年数の倍増を目指したステンレスバンドによる割れ防止策では，1年間の使用検証を経て竹の収縮によるゆるみや割れの増大によるバンドの破断などバンドの締め付け構造への課題が浮き彫りになった。

(2) 教育・研究面

- ・竹あかりを題材とした南房総学支援では，教材の竹材を準備するにあたって，絵柄を表現しやすく・神社の参道に設置しやすくするためにLEDを通す穴の位置や大きさを工夫するなど市民団体に新たなノウハウを蓄積することができた。

4. 今後の展開

- 房州うちわ等伝統工芸品産業支援では，原料調達問題の一助としてもらうため，房州地方の女竹林に関する効率的採集にむけた整備手法の開発とともに今ある女竹林の評価手法(適した原料がよく採れる竹林の見極め方法ほか)の検討を試みる予定である。
- また引き続き運営メンバーの高齢化がすすむ「南房総市竹あかり」では，本年度明らかになった「組み立てる負担」等の半減にむけた設置技術の検証結果と団体からの強い要望をもとに，次年度新たな設置技術の開発も視野に入れて検討したい。